

はじめに

歴史はほんとうにおもしろい、という実感を歳とともに深めている。私の場合、なぜか早くより歴史に興味をもち、大学も文学部の史学科（国史学専攻）へ進み、幸いにも日本歴史（おもに平安時代）の研究と教育を三十年あまり続けてきたから、特別その感が強いのであるうか。

しかし、どうもそれだけではないようだ。その内的な一因としては、長らく学界で主流を占めてきたイデオロギッシュな歴史の観方が影を潜めて、あらゆる歴史事象を多面的・総合的に考察しようとする動きが盛んになっているからであろう。

また、外的な要因としては、欧米を手本に進められてきた近代化・合理化の歩みがゆき詰まって、むしろそれ以前の時代、それ以外の地域に認められる考え方や生き方などへの関心が高まっているからであろう。

とりわけ最近、日本史上の重要人物をダイナミックに扱ったドラマや小説などが好評を博している。どの時代でも、どんな地域でも、歴史を創り革め担ってきたの

日本歴史再考

所 功

講談社学術文庫

は、多種多様な人間であり、とくに中核的なリーダーを抜きにして歴史は語りえない。したがって、このような現象が生ずるのも、当然の傾向といえよう。

じつは私も、振り返ってみれば、早くから興味をもつたのは歴史上の人物であり、学部の卒業論文も平安前期に文人官吏として活躍した三善清行の伝記研究にほかならない。その後、宮廷の儀式書・制度史に研究の重点を移し、今日にいたっているが、人物史への関心は減るところか脹むばかりである。

そこで、まさに三十年前（昭和四十三年）初めて成人式の記念講演を頼まれて以来、学外で一般の人びとに話をさせていたたくときも、なるべく歴史上の人物をとりあげ、その事績や著述などを具体的に紹介しながら、同じ人間として学ぶべき点を伝えるように心がけてきた。

もちろん、気の小さい私は、不特定多数の人びとに対して、満足な話のできたためしがない。したがって、会合の主催者側で速記を活字化される場合、大幅に手を入れ、論拠の史料などを付け加え、少しでも正確なものにするよう努めてきた。

そのような講演記録のうち、歴史に関係の深い十数篇を選んで一本にまとめたのが、六年前の拙著『歴史に学ぶ——日本文化の再発見——』である。それは新人物往來社（吉成勇編集集）から歴史研究会編『文化講演叢書』の一冊として出版された

が、私的には平成三年（一九九一）十二月十二日に満五十歳という人生の節目を迎えた記念の紙碑にもなった。今回、そのなかから分量の都合で五篇を省き、およそ十篇（ほかには付載三篇）を全面的に再修訂したのが、本書にほかならない。

このように小著は、もともと独立した講演記録の若干を集めて直したものにすぎないから、体系的にも統一性も乏しいことは、否定すべくもない。ただ、しいていえば、どれも内容的に一応完結しているので、どこから読まれてもよく、それぞれから自由に『日本歴史を見直す』ことができるかもしれない。

未筆ながら、前著『伊勢神宮』のときと同じく、今回も講談社学術文庫の池永陽一郎長に格別な御高配を賜わり、また布宮みつこ氏と校閲部の方々には、本書を読みやすくするため、いろいろと御尽力をいただいた。なお、教え子の山本憲二君（稲沢女子高校教諭）にも、前著と同様、拙稿をワープロデータ化するさい、献身的な協力を得た。ここに併せて心から感謝の意を表したい。

平成十年（一九九八）正月十五日

目次

はじめに

3

一

日本文化の特性

15

1 日本文化の多様性

15

2 日本文化の総合性

18

3 日本文化の再評価

21

〈付〉和魂漢才の英知

24

二

和氣清麻呂と平安建都

30

1 偉人を見直す

31

2 姉・広虫の功勞

34

3 和氣氏のふるさと

37

三

菅原道真と天神信仰

81

1 身近な天神さま

81

2 生家と勉学ぶり

84

3 讃岐守に転出

87

4 異例の昇進

89

5 宇多・醍醐天皇の信任

91

6 大宰府に左遷

94

7 不当な左遷理由

96

8 失脚原因の推測

103

9	怨霊と名誉回復……………	108
10	天神信仰の流れ……………	111

四

	順徳天皇と『禁秘御抄』……………	118
1	広池千九郎と『古事類苑』……………	118
2	二千年近い皇室の存続……………	119
3	即位礼と大嘗祭の意義……………	122
4	順徳天皇の前半生と志向……………	125
5	流謫地の佐渡で二十余年……………	130
6	著作にみる天皇の精神……………	133
7	『禁秘御抄』の敬神崇祖……………	137
8	宮中における仏事と神事……………	141
9	学問と管絃・和歌の嗜み……………	143
10	佐渡の供奉者と火葬塚……………	145

五

	人物中心の歴史教育……………	150
1	小・中・高の歴史教育……………	150
2	内村鑑三の『代表的日本人』……………	153
3	代表的人物の選び方と扱い方……………	158
4	中江藤樹と徳川光圀……………	162
	〈付〉『美濃浪人』所 郁太郎……………	171

六

	『啓発録』に学ぶ……………	183
1	西郷隆盛と橋本景岳……………	183
2	大人物になる心得……………	186
3	立志・勉学・交友……………	190
4	明治維新を担った若人……………	192
5	現代青年の役割……………	196

七 年号にみる伝統文化……………199

- 1 誰にもわかる母国語……………199
- 2 明治と戦後の日本語論……………201
- 3 メートル法と尺貫法……………203
- 4 今も生きている旧尺度……………206
- 5 中国と周辺諸国の年号……………210
- 6 日本年号の成立……………213
- 7 一世一元の法制……………215
- 8 戦後の年号論議……………217
- 9 国民統合のシンボル……………219
- 10 歴史年代の認識符号……………220
- 11 年号と西暦の併用……………223
- 12 伝統を守り抜く努力……………225

八 即位儀礼と神宮への親謁……………239

〈付〉新元号「平成」の由来……………228

- 1 生命の連続性……………239
 - 2 皇祖神への崇敬……………242
 - 3 御代始めの儀式……………245
 - 4 大嘗祭の主祭神……………248
 - 5 大嘗祭のもつ意味……………251
 - 6 神宮への親謁……………252
 - 7 大礼に学ぶこと……………254
- 九 年中行事と祝祭日……………257
- 1 柳田国男の問題提起……………257
 - 2 マツリとカミの語源……………259

所 功 (ところ いさお)

1941年岐阜県生まれ。名古屋大学修士課程卒業。京都産業大学教授(日本文化研究所長)。法学博士(慶大)。主著は『平安朝儀式書成立史の研究』『三善清行』『年号の歴史』『日本の年号』『日本の祝祭日』『京都の三大祭』『国旗・国歌の常識』『皇室の伝統と日本文化』など。学術文庫に『伊勢神宮』,同文庫校註に『新訂官職要解』『新訂 建武年中行事註解』がある。



講談社学術文庫

定価はカバーに表示してあります。

にほんれきしさいこう 日本歴史再考

ところ いさお
所 功

1998年3月10日 第1刷発行

発行者 野間佐和子
発行所 株式会社講談社
東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001
電話 編集部 (03) 5395-3512
販売部 (03) 5395-3626
製作部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治
印 刷 豊国印刷株式会社
製 本 株式会社国宝社

© Isao Tokoro 1998 Printed in Japan

図<日本複写権センター委託出版物>本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。なお、この本についてのお問い合わせは学術文庫編集部宛にお願いいたします。

ISBN4-06-159322-6

(学術)

十

6	永遠不滅の生命	305
5	庶民の常識、学者の見識	298
4	日本人の祖先祭祀	292
3	民族文化の見直し	288
2	家族的な人間関係社会	284
1	宗教の共存共栄	280
	日本人の宗教的感性	280
5	「国民の祝日」の名と実	271
4	ハレの行事の意義	268
3	年中行事の史的研究	264